

“第3回みんなでラボろう！！”が開催されました



10月26日（火）に“第3回みんなでラボろう”がオンラインで開催されました。

これまでの“みんなでラボろう”を振り返ってみると、第1回では松が丘小学校より、カリキュラム・マネジメントを中心に話題提供があり、その後松が丘で始まったイノベーションについて参加者と対話しながら情報交流が行われました。第2回では朝霧小学校でスタートした

朝霧型プロジェクト型学習を中心に話題提供していただいたあと、地域と連携したプロジェクト型学習に視点を移した朝霧小の取組についてブレイクアウトルームで少人数での対話をおこなった後、全体での交流で深めていきました。

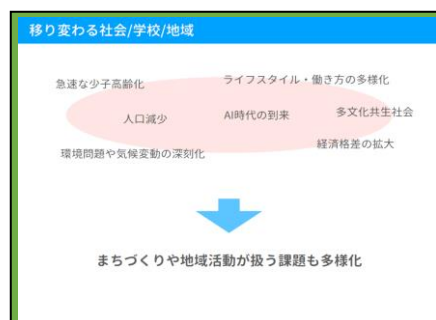
今回の第3回では明石市内の小学校区でまちづくりの支援にあたっておられる明石コミュニティ創造協会の宮内さんをお招きして、まちづくり支援をおこなっている立場から、コミュニティ・スクール導入で感じた変化・影響、そしてコミュニティ・スクールへの期待等を話題提供いただきました。



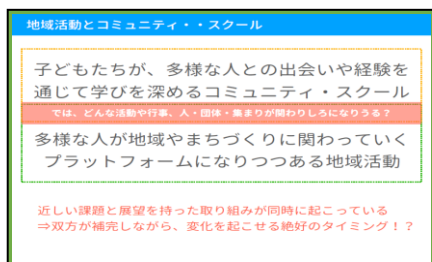
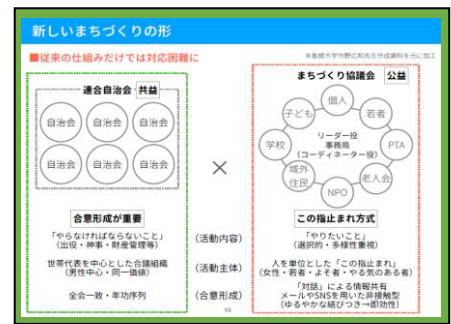
私たちは小学校区単位で“まちづくり”がどのような形ですめられているのかをよく知らないのが正直なところです。今回はまず、そのあたりから切り込んで

いただきました。明石市の地域づくりの歩みやコミュニティセンターの役割、そしてコミュニティ創造協会がどのようにまちづくりの支援にあたられているのかをわかりやすく説明していただきました。地域の中にある学校として、このあたりのことは教職員も理解しておく必要があると感じました。また、地域でもコミュニティ・スクールのことが話題になることが増え、明石連合まちづくり協議会の広報会議の中で、「学校との連携はこれまでも行事や見守りを通じてやってきた。まちづくりも色々新しい試みをしているなかで、今改めてコミュニティ・スクールで目指すものってなんだろう？」といった話になり、今回広報紙で取り上げることになったという裏話も聞かせていただきました。

そして、まちづくりに関わる中で、まちづくりや地域活動が扱う課題も多様化しているという問題提起がありました。「急激な少子高齢化」「人口減少」「環境問題や気候変動の深刻化」「ライフスタイル・働き方の多様化」「AI時代の到来」



「多文化共生社会」「経済格差の拡大」等、地域を取り巻く社会の変化として例にあげられましたが、それは学校を取り巻く社会の変化でもあります。学校も地域もそうした課題に向き合える資質・能力を育んでいくことが必要なんだと話聞きながら感じました。また、地域ではそうした課題に向き合うためには、従来の仕組では対応が困難になってきており、“新しいまちづくりの形”が必要になってきており、“多様な「人」が「個」として関わる地域づくりへ（この指とまれ方式）”に変化してきているというお話を聞き、学校も色々な面で未来を生きる子どもたちが育つ場として、従来の仕組では困難になってきており、新しい仕組を考えなければいけないのは、地域づくり、学校づくりにかぎったことではなく、日本が抱える課題なんだと感じます。最近DX（デジタルトランスフォーメーション）をよく耳にするのは、生まれ変わるくらいの変化が必要というメッセージなんだろうなと思います。



こうした地域での仕組の変化が起こりつつある中で、地域活動が多様な人が地域やまちづくりに関わっていく受け皿（プラットフォーム）になりつつあり、そのことは子どもたちが共に学びを深められる「地域の人により多彩に、繋がりやすくなっているのでは」と話されました。まさしく多様な地域参加が子どもの多様な学びの可能性を広げていくとい

う学びの仕組を創るコミュニティ・スクールの可能性が広がっていくのではと感じました。

そのあといくつかの小学校区の取組を紹介していただき、コミュニティ・スクールが地域にあたえている影響として、土日など学校が休みの日にも地域の花壇に子どもが手伝いに来るようになったり、校区内に活動そのものが拡充してきたといった印象を持たれているそうです。また、子どもたちがサービスの提供先から、「一緒に活動する人」と変化してきていることや、大人の活動への参加が増えるなど、地域の人材を掘り起こしていくコーディネート力の向上を感じるといった話をお聞きすることができました。

そして最後のまとめとして、“改めて、お互いの情報共有が大事”であり、“〇今どんなことしようとしている？ 〇何に困っている？ 〇最近どんな人や団体がかかわっている？”といった情報交換をする中で、その校区にあった連携の形が見えてくるのでは？と締めくくられました。これまでのラボろうは学校としての取組の話題提供でしたが、今回まちづくりの紹介を含め、学校が変化しようとする中で、地域の中にも見えてきた変化の話題提供をしていただいたのはこの後の対話にいい刺激を与えていただきました。この後の「コミュニティ・スクールで子どもの学びがどうかかわるのか？ そのことによって地域の活性化にどうつながっていくか」を柱にブレイクアウトルームで少人数にわかれての対話をおこない、そして全体での交流をおこないました。そして今回、山口県から前兵庫教育大学大学院教授、CSマイスターの小西先生より、長野県の事例を交えながら大人の学びの場としてコミュニティ・スクールの可能性等についても話を聞くことができました。とっっても濃く、学びの多い時間になったのではと思います。（文責：北本）

